

バレー新人大会優勝

「気持ちの切り替えができた」

1月の新人大会で、バレー新人大会が開催された。準々決勝では、1セットを取られたものの、うまく切り替え勝利を収めた。決勝では、前回の春季大会の経験を生かして前橋商を倒し、8大会ぶり3度目の優勝を飾った。



サーブを打つ高崎の選手

1月14日から1月28日にかけて、群馬県高等学校バレーボール男子新人大会が行われた。高崎高校は、3回戦、準々決勝と勝ち進み、準決勝、決勝では相手校に1ゲームも譲らない圧倒的な勝利を収め、優勝を勝ち取った。

そこで、新人大会の感想や今後の展望について、バレーボール部部長の前田陸斗くん(旧2の4)に取材した。

―新人大会の感想は。―
まずは嬉しかった。自分たちの今までやってきたことの結果が出て、よかったと思っただ。年末の合宿では、不安に思う気持ちが大きかった。しかし、本番では自分たちの力を出せたと思う。

―今大会の要因は。―
十分に力を発揮できたこと、そして、点を取られても仕方ないと考えて、気持ちを切り替えられたことだ。自分たちは失点すると、気持ちが沈み

「人生は選択の連続である」という言葉を聞いたことはあるだろうか。これはシェークスピアの「ハムレット」という本の一節である。

勉強をやるかしないか、寄り道をするかしないかなど、私たちは毎日数えきれないほどの選択を強いられている。そして、その一つ一つの選択の結果が今の自分を作り上げている。しかし、ほとんどの人は、選択を間違えた後悔した経験をもつだろう。「違う選択をしていればよかった」などと後悔しても、過去を変えられない。私たちが日々よく考えて、最善の選択をし

説 論

選択における最善とは

ていく必要がある。ここで、最善の選択について考えてみる。勉強するか、ゲームをするかを選ぶとき、どちらが最善の選択だろうか。多くの人は、勉強をすること

しかし、中にはゲームをすることが最善の選択だと思える人もいるだろう。ゲームを選択する人は、おそらく将来のために今を犠牲にするよりも、今というかけがえない時間を

が最善の選択だと思おうだろう。それは、勉強をしたほうが将来の役に立つと考えたからだと思う。勉強をすることは、将来を見据えた際の最善の選択と言える。

を楽しみたいという考えを持っているのだろうか。このように、最善の選択は絶対的なものではなく、考え方によって大きく変わる。ただ、選択には必ず後悔が生じ

プレーの質が下がってしまう。それを防げたのは大きかった。

―試合時の心情は。―
自分は不安というものはなく、仲間を信頼していた。前回の春季大会の試合中には、部長としてチームを鼓舞したり、何が良くて何が悪いかを指摘したりすることができなかった。そのため、今回はそうした部長としての役割を果たせるよう意識した。

―大会で印象に残った試合は。―
準々決勝で当たった高崎経

マンドリン県3位 全国での躍動を誓う



受賞を喜ぶマンドリン部員たち

済大学付属校との試合だ。1セット目は36-38で取られ、身体的にも精神的にもかなり追い詰められていた。しかし、その後2セットを取り返し、最終的に勝つことができた。この試合のおかげで自分たちが勢いづいたと思う。

―大会に向けて行なったことは。―
改修で体育館が使えなかったため、隔週でミーティングを行なった。チームを見直すことで、課題や解決策を考えることができた。

―後輩に対してのメッセージ。―
新2年生は、しっかりと自分の役割を理解しているのがよいところだが、自分の枠の外に出る強さも持ってほしい。

―次の大会への意気込みは。―
次の大会である総合体育大会は、新人大会から約4ヶ月後で、かなり長期的に行なわれる。そのため、一つ一つの前の目標を見定めて、モチベーションや気持ちを保ち、チームを強化していきたいと思っている。(大手)

1月29日に大泉文化むらホールにて行なわれた令和4年度群馬県高校ギター・マンドリンコンクールにおいて、マンドリン部が第3位優秀賞を受賞した。この結果により、今年の7月に大阪府吹田市で開催される全国高校ギター・

マンドリン音楽コンクールへの出場が決まった。そこで、マンドリン部の部長である恩田溪太郎くん(旧2の4)に話を聞いた。恩田くんは、「3位という結果に終わり、少し悔いが残る。一方で、全国大会に進めたことはうれしく、ホッと

している。県大会では『祭り』という曲を演奏した。この曲は、日本風の穏やかなメロディーからヨーロッパ風のにぎやかな場面まで、さまざまな表情がある曲だ。にぎやかで力強く、速弾きの多い曲でもある。テンポを安定させたり、ゆったりとした場面を表現したりするのが難しかった。一体感のある演奏をするために、低音パートと高音パートで互いの演

また、今回の県コンクールを振り返って、「今回は、高崎高校が最初の演奏だったので緊張する時間が短く、ソロパートをはじめとする見せ場では自分たちなりに満足いく演奏ができたと思う。また、力強さと繊細さを兼ね備えた高崎マンドリン部らしい演奏ができた」と、手ごたえを感じている。しかし、審査員に聞かせたいポイントがうまく評価につながらなかったため、より表現力に磨きをかけたい。昨年の全国大会で、本番は調子が狂いやすく苦戦した」と語った。

さらに、全国大会に向けての意気込みを、「今年は、平常心を心がけていつも通りの演奏をし、実力を十分に発揮できるようにしたい。去年の全国大会では、優良賞という結果に終わったが、今年は優秀賞を目指してマンドリン部一丸となり頑張る覚悟だ。ぜひ、応援してほしい」と述べた。(小松)
